

プロスポーツチームと地域愛着に関する研究
追跡調査による経年比較
A study of Professional Sports Team and Place Attachment
Comparing the Result Based on the Following Research

1K06B193

指導教員 主査 原田宗彦先生

本目 みほ

副査 作野誠一先生

【緒言】

現在の日本で大都市に居住している人の行動範囲は<地域>という狭い範囲を大きく超えており、その重要性を人々はどこかで実感しながら、また無用性も実感している。しかし、なぜか無用性を感じているはずの<地域>に注目が集まっている現状もある。それは、近代社会システムの改革が必要とされているからだ。(森岡,2008)そういった中、スポーツでは「リーグ」がもたらした、企業スポーツから地域密着型クラブへというパラダイムシフト(原田,2008)が現在様々なスポーツに広がっている。地域密着を掲げるプロスポーツチームを核とした地域活性化が注目されている中、プロスポーツチームと地域の関係の検討をすることは重要であると考えられる。

【研究目的】

本研究は、五月女(2008)が行った「プロスポーツチームと地域愛着に関する研究」の経年調査を行うことにより、リンク栃木ブレックスの観戦者におけるチームアイデンティフィケーション構造・地域愛着構造の比較、観戦者におけるチームアイデンティフィケーション(以下、TI)と地域愛着の関係性の变化を検討することを目的とする。

【研究方法】

本研究は、リンク栃木ブレックス(JBL 所属)の観戦者に対し、質問紙によるアンケート調査を行った。質問項目に関しては五月女(2008)の行ったもの同様の、TI、地域愛着に関する質問項目に加え人口統計的変数を設定した。

【結果】

TI 構造について「責任因子」と「誇り因子」から「TI」に統計的に有意な影響が認められた。地域愛着構造については「安全性因子」から統計的に有意な影響が認められた。昨年度との比較では、「TI」、「アクション因子」、「誇り因子」から統計的に有意な差が認められた。地域愛着においても比較を行ったが全項目で、統計的に有意な差は認められなかった。TI と地域愛着の関係性の比較を行ったところ、地域愛着が従属変数となり TI の影響を受けると判断され昨年度の TI が従属変数となり、地域愛着の影響を受けるという結果と逆の結果となった。

【考察及び結論】

リンク栃木ブレックスは設立3年目をむかえ、それによって「おらがまち」のチームという気持ちが生え、「誇り因子」から有意な差が認められたのではないかと考えられる。TI と地域愛

着の関係性の検討において、昨年度と逆の結果となった。チームができて間もない頃は、地域愛着のある人がチームを認識し、観戦しはじめることによりTIが高まる、という関係であり、チーム設立から年を経ると、チーム自体が認識され、競技・チームの認識から観戦しはじめ、TIが高まり、応援などの中で「栃木」という言葉を連呼するなどといったことで地域を意識し地域愛着に影響がでるという関係になっているのではないかと考えられる。TIが地域愛着へ影響を与えているのならば、行政が地域の活性化、まちづくりの基盤となる住民の地域愛着度を高めるための施策として、プロスポーツクラブを支援していく論拠となるのではないかと考えられる。